

## 1-(3) 水田を基本とした水稲・野菜複合経営の確立

— ブロッコリーの安定生産を目指して —

### 1 活動のねらい

君津管内ブロッコリー生産者の栽培技術向上を目指し、栽培講習会や個別巡回を実施した。また、地域での自主的な取組を支援し、生産者及び関係機関の情報交換の場を設定するとともに、君津地域全体の生産力向上を目指した。

### 2 課題の背景

水稲農家の冬季の所得向上を図るため、平成 24 年度から水稲との複合経営品目としてブロッコリーの栽培を推進している。平成 31 年度の実績は 58 名、作付面積は 10.13ha、市場出荷と直売所出荷の合計金額は約 2,200 万円である。JA きみつ管内の水田裏作野菜として地域に定着しつつある一方で、湿害や台風による品質の低下、市場到着後の花蕾の黄化、生産者間の選別に差があるなどの問題が生じている。

そこで、今後も生産を維持・拡大していくためには、近年の異常気象にも対応できる栽培技術の確立が不可欠である。加えて、各地区での現地検討会をとおした個々の栽培技術向上及び産地としての良品生産に向けた意識の向上が必要となっている。

### 3 普及活動の経過

#### (1) 安定生産技術の習得に向けて

##### ア 栽培講習会における集団指導

栽培講習会には生産者、関係機関合わせて約 30 名が参加した。適期定植を遵守することや湿害対策、収穫後の適切な保存方法について説明した。特に昨年度の生産において問題となった花蕾の黄化については、写真を用いて花蕾色の変化について説明したり、他産地で実施されている対策について紹介するなど、特に重点的に指導をした。

##### イ 台風対策指導

台風前後には注意喚起チラシの作成と配付を行い、個別に巡回しながら事前・事後対策を行うよう呼びかけた。また、被覆資材の展示ほを設置し、強風対策効果と被覆資材の種類の違いによる効果を検証したので、次年度以降の対策に活用することとした。

#### (2) 地域でのグループ活動を支援

富津市富津地区、天羽地区、君津市小糸地区で 10 月から 11 月にかけてそれぞれの地区ごとに合同巡回が開催され、生産者、君津市農業協同組合、農業事務所が参加した。農業事務所からは主に、生育状況の確認、追肥や病害虫防除などの今後の栽培管理におけるポイントについて指導を行った。富津地区と天羽地区については、生産者からの呼びかけが発端となり実施され、それぞれ 10 名と 9 名の生産者が参加した。



写真1 天羽地区での合同巡回の様子

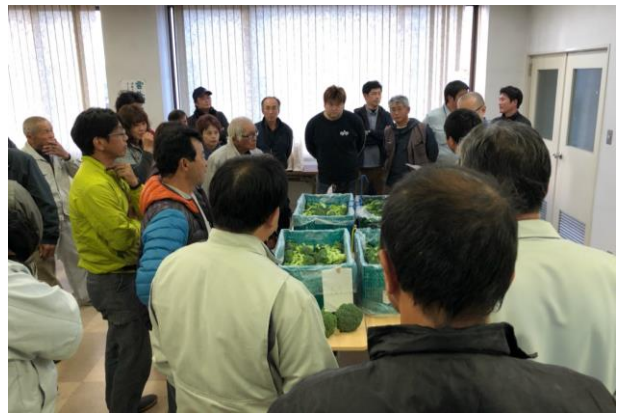


写真2 出荷査定会で選別を確認

## 4 普及活動の成果

### (1) 技術力の向上

台風15号の影響では場準備や定植作業が遅れたり、台風19号や10月25日の豪雨により株が傷められるなどの被害があった。しかし、台風前後の土寄せ、台風後のすみやかな排水対策や液肥の葉面散布を行ったほ場ではその後の生育に回復がみられた。また、独自の強風対策を行うなど、各々の生産者がこれまでの経験を踏まえて対策を講じており、生産技術が向上した。

### (2) 生産に対する意欲の向上

合同巡回や出荷査定会の終了後には、ブロッコリーの栽培に関する情報や意見交換が活発に行われる様子がみられた。その中で、「品質の良いブロッコリーを出荷したい」、「正品率を上げたい」という意見があがり、意欲的に取り組む生産者による組織が立ち上がった。また、リーダー的存在の生産者からの発案により合同巡回が開催されるなど、個別のみならず産地として良品生産に取り組もうという機運が出てきた。

## 5 今後の発展方向と課題

生産者が現在のブロッコリー生産に問題意識を持ち意欲的に仲間づくりをして生産に取り組むようになった。このような良品生産に向けた自主的なグループ活動を行う地区をモデル地区として育成し、君津地域全体の生産力向上と品質の高位平準化を目指していくこととする。

また、産地の維持・発展のために、既存生産者の栽培面積拡大と技術力の向上、新規生産者の確保と定着が不可欠である。新規の生産者が意欲的に栽培に取り組み、定着できるように、既存の生産者とも協力しながら重点的な指導を行っていく。

生産面での課題である台風対策及び花蕾の黄化防止対策については、生産者及び関係機関と連携しながら改善に向けた取組を引き続き行っていく。

## 6 担当

南部グループ

## 7 協力機関

君津市農業協同組合、全国農業協同組合連合会千葉県本部、農林水産部担い手支援課